

国道 357 号東京港トンネル東行き の開通について

国土交通省 関東地方整備局 川崎国道事務所

1 はじめに

国道 357 号東京湾岸道路は、東京湾に面する千葉・東京・神奈川の各都市を結ぶことにより、都市内の交通を臨海部へ転換させ、地域の交通を円滑にする道路であり、臨海部に位置する空港や港湾をはじめとした物流拠点を効率的に結ぶ、経済活動を支える道路です。

令和元年 6 月 3 日に開通した、国道 357 号東京港トンネル東行き（内陸側^{*}）の整備により、平成 28 年 3 月に開通した西行き（海側^{*}）とあわせて、海底トンネルにより湾岸エリアが結ばれ、東京湾を横断して台場と羽田空港を行き来することが可能となり、臨海部を中心に開催される 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは、輸送インフラとして機能する道路です。（図-1、写真-1）^{*}以下、省略



図-1 位置図

2 計画の概要

東京港トンネル東行きは、海底トンネル区間のほか、トンネルへのアプローチとなる掘割構造区間を含む全長約 1.9km の事業です。

海底トンネル区間は約 1.3km のシールドトンネルであり、大井側から台場側に向かい（東行き）掘削を行いました。

海底下における土被りは 6～8m、最深部では海面からトンネル天端まで 22m となっており、首都高速湾岸線の沈埋トンネルとは並行し近接しています。



写真-1 国道 357 号 東京港トンネル付近

開通区間：東京都港区台場～品川区大井

延長：約 1.9km〔うちシールドトンネル延長：約 1.3km〕(図-2)

車線数：2車線(図-3、写真-2,3) ※往復4車線：東行き2車線+西行き2車線

トンネル外径：12.0m

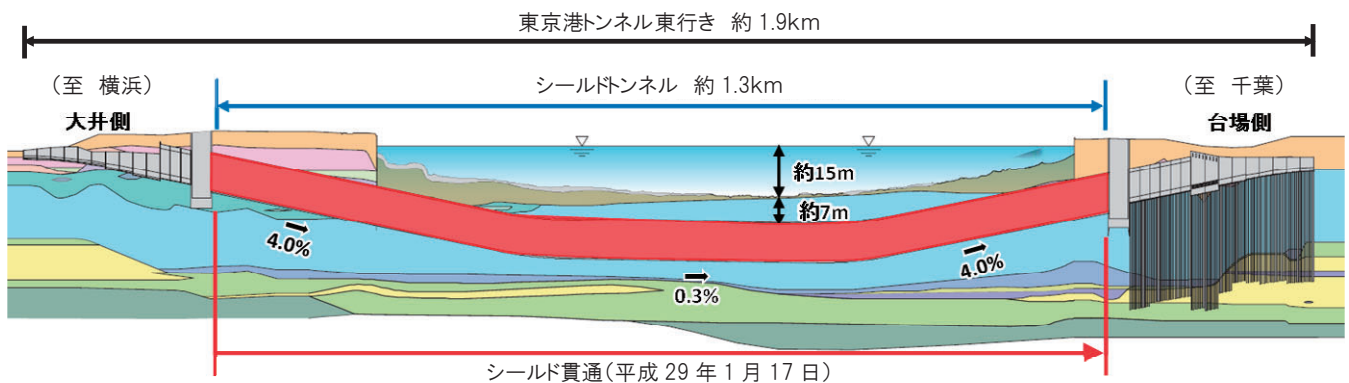


図-2 縦断面図

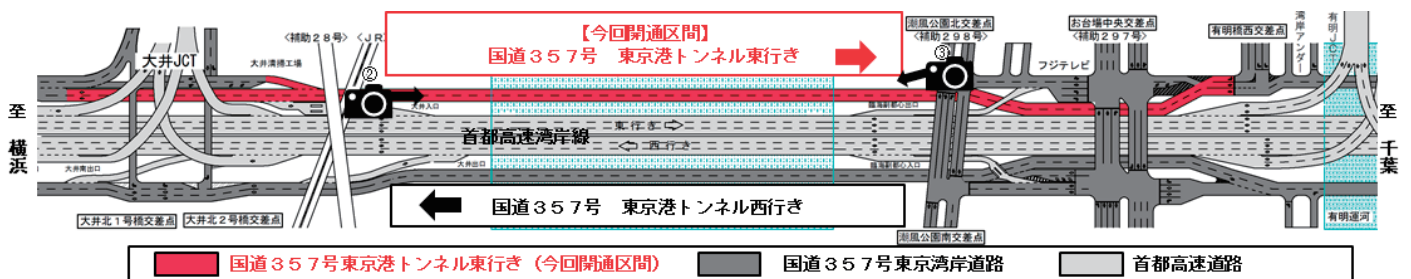


図-3 平面図



写真-2 トンネル坑内(開通前)



写真-3 トンネル坑口(台場側)

3 整備効果

東京港トンネルの開通により、首都高速に集中していた交通が分散され、混雑が緩和されるほか、湾岸エリアをつなぐ新たな道路ネットワークが結ばれることにより、移動ルートの選択肢が増え交通の円滑化が期待されています。

また、東京港トンネル周辺には、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで、ビーチバレーボールの会場となる潮風公園やトライアスロンの会場となるお台場海浜公園などが多くあることから、選手や

観客が会場へアクセスするための輸送インフラとしての効果が期待されています。

東京港トンネルの開通に先立ち、地元品川区の主催により開催された開通記念イベントでは、国道357号の歴史や東京港トンネルに関するパネル展（写真-4）のほか、普段は車以外では入れない海底トンネルの中で、フリーランニング（写真-5）やウォーキング（写真-6）が実施され、約2,000人の皆様に参加頂き、東京港トンネルの開通への期待を多く感じることができました。



写真-4 開通記念イベント（パネル展）

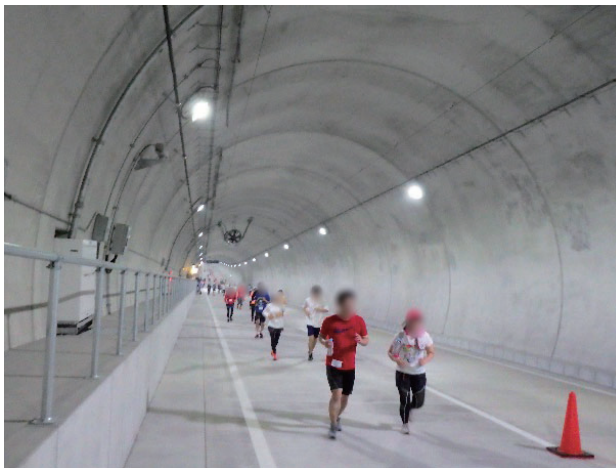


写真-5 開通記念イベント（フリーランニング）



写真-6 開通記念イベント（ウォーキング）

今回開通した東京港トンネル東行きでは、開通1週間後の交通量は約12,100台/日となっており、開通区間に並行する幹線道路2路線（都道316号・東京港臨海道路）の東行き交通量の合計は、約38,800台/日（開通前）から約32,300台/日（開通1週間後）と約17%減少（約6,500台/日減）。首都高速湾岸線の東京港トンネル東行きの交通量については、約67,900台/日から約65,700台/日と約3%減少（約2,200台/日減）しています。（図-4,5）



図-4 交通量調査箇所

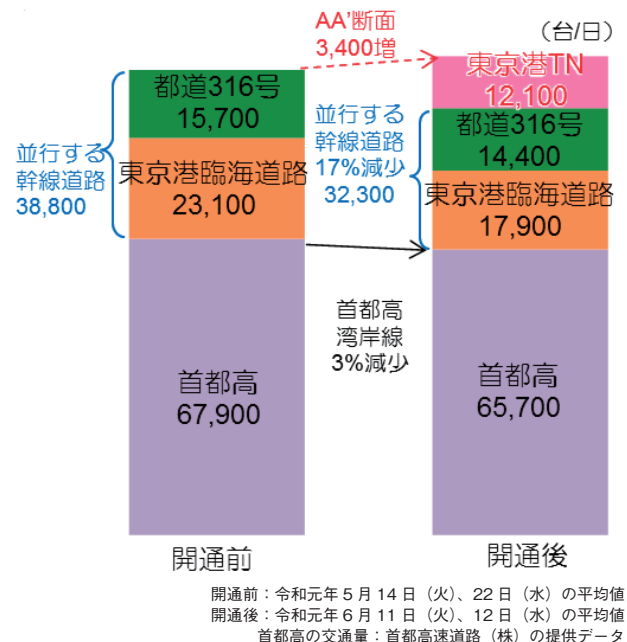


図-5 東京港トンネル断面の東行き交通量



写真-7 国道357号 東京港トンネル（台場側）から千葉方面

東京港トンネル西行き開通時には、お台場から羽田空港まで一般道を利用して移動した場合、レインボーブリッジを経由すると30分程度かかっていたものが半分程度にまで短縮されるなどの効果も確認されており、空港や港湾等と連携して交通・物流のネットワークが強化され、青海ふ頭や大井ふ頭などでは、開通後コンテナの取扱量が増加するなど、物流活動の効率化にも寄与しています。

東京港トンネルの開通により、周辺道路からの交通の転換や、物流活動の効率化などの効果が見込まれることから、引き続き詳細な調査を行い、整備効果の検証を実施していく予定です。

4 おわりに

東京港トンネルの開通により、羽田空港と千葉市の間が国道357号で結ばれ、湾岸エリアの新たな道路ネットワークが完成し、東京臨海部の移動性の向上とともに、空港や港湾拠点と臨海部とのアクセスが強化されました。

川崎国道事務所では、国道357号の更なる利便性や移動性の向上に向けて、現在渋滞が発生している、辰巳や東雲、有明の3交差点を立体化する事業を進めるほか、東京都と神奈川県の間を流れる多摩川の下にトンネルを整備する、多摩川トンネルの整備事業を推進していきます。